

鹿児島国際大学国際化ビジョン

テーマ：『国際的視野でものを考える学生を育成する大学を目指して』

1. 策定の趣旨

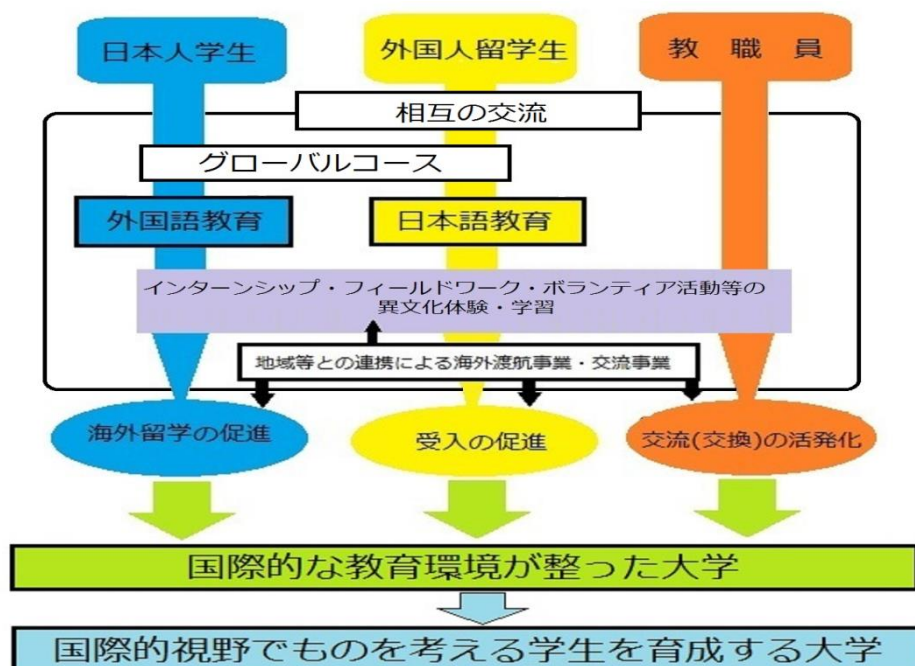
鹿児島国際大学国際化ビジョンは、本学の国際交流の現状を踏まえ、大学のコアミッションである「国際的視野でものを考え、地域社会に貢献する人材育成」に基づき、今後継続的または新たに取り組むべき視点と方向性を挙げ、目指すべき本学の国際化の将来イメージを描いたものである。

2. 将来イメージ

大学で学ぶ日本人学生と留学生、教職員の三者が、国際交流を通じてより深く関わっていく中で、日本人学生には外国語教育を、外国人留学生には日本語教育をより充実した体制で行いながら国際化に対応する能力の基盤をつくり、さらに両者の異文化体験・学習を通じて、日本人学生の海外留学促進、外国人留学生の受入拡大につなげていく。

また一方で、より幅広い層の教職員が国際交流に関わりを持ち、海外研修と受入の活性化を通じて国際感覚を磨いていく。

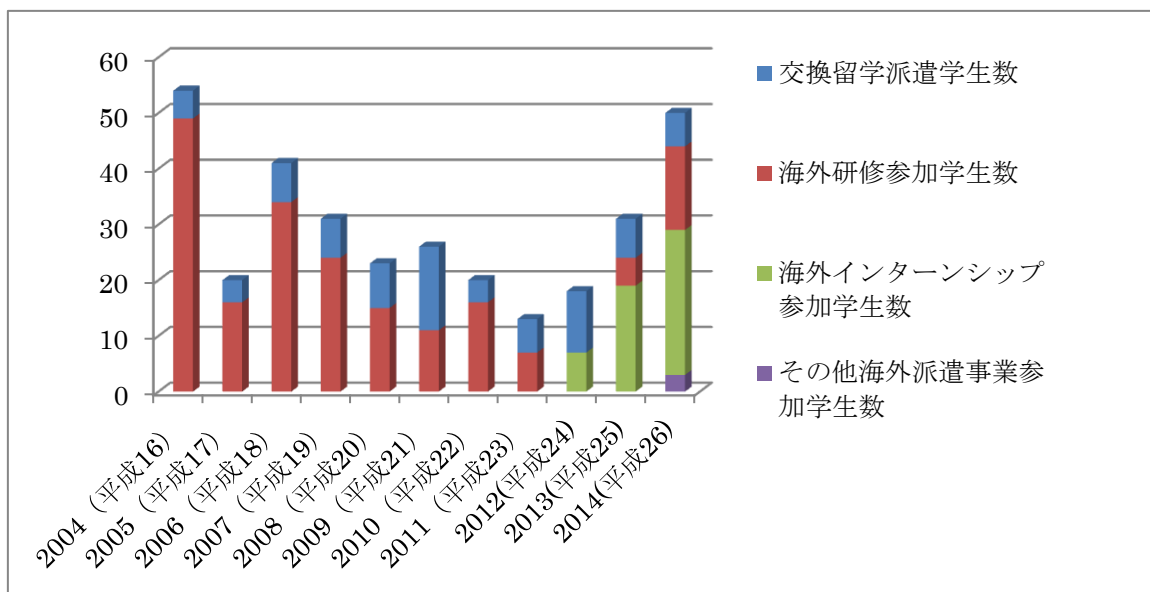
鹿児島の地域特性を活かし、地域・行政・企業等とスムーズに連携しながら、「学生を育てる」ことを主眼においた取組により、多様な国籍の学生が学び、多様な国へ留学できる“国際的な教育環境が整った大学”という将来像を目指す。



3. 本学の国際交流の現状

(1) 学生の海外派遣事業

学生の海外派遣事業に係る参加学生数



学生の海外派遣事業（交換留学、語学研修、清華大派遣他）による学生派遣数は平成23年度まで減少傾向にあったが、平成24年度から増加傾向にある。これは平成24年度から海外インターンシップが開始され、かつて海外研修参加者が占めていた部分が、海外インターンシップにシフトし、その参加人数が7名、19名、26名と増加傾向にあることに起因する。全体的に半年～1年間という長期かつ枠の限られた交換留学派遣よりも、経済的・危機管理上のリスクが低く、将来の就職につながる中・短期の派遣事業への参加者が増えている傾向にある。

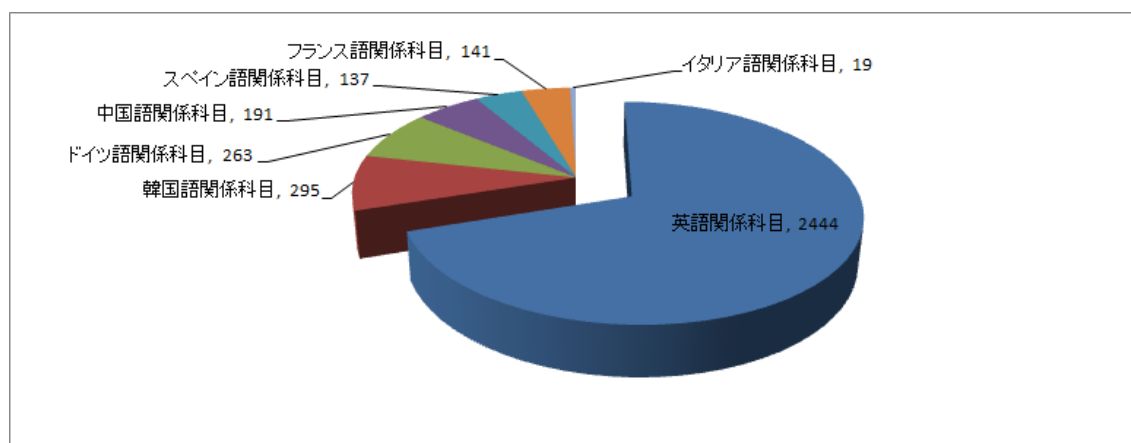
（２）外国語教育

各学部・学科の共通教育科目として、語学研修を含む 12 の英語科目（音楽学科のみ 6 科目）、第二外国語科目として、ドイツ語・中国語・スペイン語・フランス語・韓国語が語学研修を含む各々 3 科目で計 15 科目が開設されている（音楽学科の場合、各言語 2 科目ずつでイタリア語 2 科目が加わり 12 科目）。

また、国際文化学部では専攻科目として中級の英語 4 科目とドイツ語他 4 言語の演習・会話等が各々 4 科目ずつの計 24 科目、さらに上級等の英語 19 科目、ドイツ語他 4 言語の初級～上級・演習等が各々 6 科目ずつの計 49 科目が開講されており、これらの科目は学生の履修コースとして「英米語コース」と「国際言語文化コース」に振り分けられている。

なお、“比較文化特論”や大学院の“英語特殊講義”など、外国語（英語）のみにより授業を行う科目が開講されているが、ごく限られたものである。

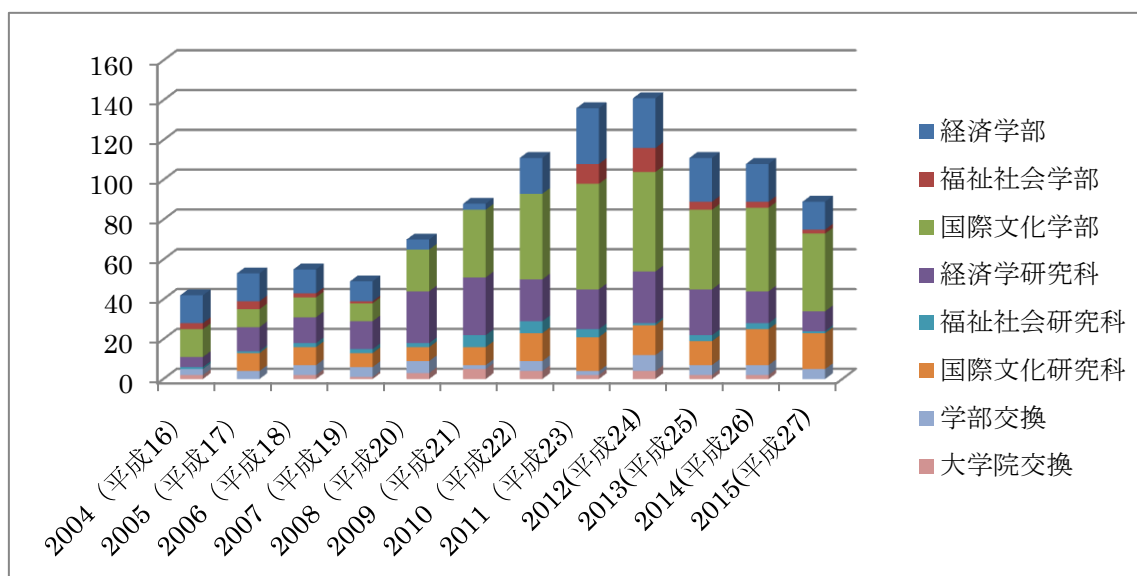
外国語関係科目の履修登録数（平成 27 年度前期：全学部）



学生の履修登録数は、必修科目が多い英語関係科目を除き、韓国語・ドイツ語の登録数が多く、中国語、フランス語、スペイン語と続く。イタリア語は音楽学科独自のもので、履修数は極端に少ない。

(3) 外国人留学生の受入

外国人留学生の受入数



外国人留学生の全学生数に対する割合

	2004(H16)	2005(H17)	2006(H18)	2007(H19)	2008(H20)	2009(H21)	2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)	2015(H27)
留学生数(A)	42	53	55	49	71	88	109	136	141	111	108	89
全学生数(B)	4834	4643	4558	4330	4146	4006	3814	3658	3370	3181	3004	2791
割合(%) (A/B)	0.87	1.14	1.21	1.13	1.71	2.20	2.86	3.72	4.18	3.49	3.60	3.19

外国人留学生の国籍と大連入試による入学者の割合

	2004(H16)	2005(H17)	2006(H18)	2007(H19)	2008(H20)	2009(H21)	2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)	2015(H27)
中国(A)	40	49	48	45	57	72	91	127	123	101	100	81
中国の留学生で大連入試による入学数(B)	26	24	24	22	31	41	60	85	80	62	56	50
台湾	0	0	2	2	12	14	13	7	10	7	4	3
韓国	2	4	4	2	2	2	3	0	3	1	1	2
アメリカ	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	1	0
カナダ	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0
イギリス	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	2
オーストラリア	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
ベトナム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
全留学生数(C)	42	53	55	49	71	88	109	136	141	111	108	89
中国からの留学生/全留学生(%) (A/C)	95.2	92.5	87.3	91.8	80.3	81.8	83.5	93.4	87.2	91.0	92.6	91.0
大連入試による入学/全留学生(%) (B/C)	61.9	45.3	43.6	44.9	43.7	46.6	55.0	62.5	56.7	55.9	51.9	56.2

留学生受入事業（正規入学と交換留学）での外国人留学生数は、全体的に平成 23 年をピークに減少傾向にある。これは、東日本大震災の発生（平成 23 年 3 月）により全国的に留学生受入件数が下がったこと、また、本学の留学生に対する授業料減免率を下げたこと（平成 25 年）の影響と考えられる。

受入開始以来、所属学部・研究科は国際文化学部・国際文化研究科、次いで経済学部・経済学研究科が多い割合を保ちながら推移している。留学生の国籍は中国が圧倒的多数であり、その半数以上が中国・大連外国語大学で行われる特別入試を受験して入学しているため、大連での受験の増減が留学生数に大きく影響する反面、代替の入学経路は少ない傾向にある。

（４）外国人留学生の日本国内への進学・就職状況

外国人留学生の全学生数に対する割合

		2008(H20)	2009(H21)	2010(H22)	2011(H23)	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)
卒業・ 進路 修了後の	日本国内就職(A)	3	6	1	7	8	8	2
	進学（日本国内）(B)	6	4	8	14	14	12	6
	帰国その他	6	19	19	25	34	23	23
留学生の卒業・修了者合計 (C)		15	29	28	46	56	43	31
国内就職/留学生の卒業・修了者(%) (A/C)		20.00	20.69	3.57	15.22	14.29	18.60	6.45
国内就職+進学/留学生の卒業・修了者(%) (A+B/C)		60.00	34.48	32.14	45.65	39.29	46.51	25.81

外国人留学生は卒業・修了後、半数以上が帰国して就職・進学しており、日本国内に留まり就職した学生は比較的少数であるが、コンスタントに存在している。日本国内の就職先としては、鹿児島県内の場合城山観光、南国交通などの観光業、県外の場合多様な業種の一般企業に就職している。日本国内就職者は平成 23 年度以降、7～8 名で推移していたが、昨年度には急落している。

一方、日本国内で学部を卒業した留学生が大学院へ、大学院修士課程を修了した留学生が博士課程へ進学する数は国内就職者数以上の数で推移している。進学の場合、本学の学部から本学の大学院へ、本学大学院の修士課程から博士課程へ進学するケースがほとんどであるが、日本国内の他大学院へ進学する場合もある。

(5) 海外協定校との連携と教職員の交換

海外協定校との交流状況

		2010 (H22)				2011 (H23)				2012 (H24)				2013 (H25)				2014 (H26)				過去5年間の交流人数 合計
	【英語圏の協定校】	教職員派遣	教職員受入	学生派遣	学生受入	教職員派遣	教職員受入	学生派遣	学生受入	教職員派遣	教職員受入	学生派遣	学生受入	教職員派遣	教職員受入	学生派遣	学生受入	教職員派遣	教職員受入	学生派遣	学生受入	
1	ラバール大学 (カナダ・ケベック)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	プリンスエドワード大学 (カナダ・プリンスエドワード島)	0	0	2	0	0	1	1	1	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	2	0	12
3	ジョージア応用文科技術カレッジ (カナダ・バリー)	—	—	0	0	—	—	1	0	—	—	1	0	—	—	2	0	—	—	2	0	6
4	クラーク大学 (アメリカ・デューク)	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	5
5	フロリダ国際大学 (アメリカ・マイアミ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	セントラルランカシャー大学 (イギリス・プレストン)	—	—	—	—	—	—	0	3	—	—	0	2	—	—	0	2	—	—	0	2	9
7	エディンバラ・フロンクス (オーストラリア・パース)	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	【アジア圏の協定校】	教職員派遣	教職員受入	学生派遣	学生受入	教職員派遣	教職員受入	学生派遣	学生受入	教職員派遣	教職員受入	学生派遣	学生受入	教職員派遣	教職員受入	学生派遣	学生受入	教職員派遣	教職員受入	学生派遣	学生受入	
8	大連外国語大学 (中国・大連)	0	0	1	1	0	0	2	2	0	0	3	2	0	0	0	2	0	0	1	2	16
9	華東師範大学 (中国・上海)	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4
10	国立高雄應用科技大学 (台湾・高雄)	1	1	0	4	0	0	0	2	0	0	0	4	0	0	0	2	0	0	0	1	15
11	国立台湾師範大学 (台湾・台北)	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	4	0	0	0	3	12
12	台北城市科技大学 (台湾・台北)	—	—	—	—	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
13	慶熙大学校 (韓国・ソウル)	0	0	1	2	0	0	1	1	0	0	3	2	0	0	2	0	0	0	1	0	13
14	同知大学校 (韓国・大田(広域市))	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	1	0	1
	【研究所】	共同研究・セミナー				共同研究・セミナー				共同研究・セミナー				共同研究・セミナー				共同研究・セミナー				
1	チュラロンコン大学アジア研究所 (タイ・バンコク)	0				0				0				0				0				0

現在までに海外の14大学及び1研究所との学術交流協定を結んでおり、協定(交流)の内容は教職員交流と学生交流、または学生交流のみ、共同研究のみと様々である。

実質的な交流については、過去5年間の交流状況から、順調に相互の学生交換が行われてきた大学が大連外国語大学・慶熙大学校の2校、学生受入のみ続いてきた高雄應用科技大学・台湾師範大学・セントラルランカシャー大学の3校、学生派遣が続いてきたプリンスエドワードアイランド大学・ジョージアン応用文科カレッジの2校、散発的にはあるが交流が続いているクラーク大学・華東師範大学の2校がある。

近年実質的な交流が始まった台北城市科技大学・培材大学校・エディンバラ・フロンクス大学の3校がある一方で、過去5年間ほぼ人的交流がないラバール大学・フロリダ国際大学・チュラロンコン大学アジア研究所の3校がある。

(6) 地域のグローバル化への貢献

地域と関連した行事等

行 事	日 時	概 要
地域の方々との交流会	2014 (平成26) 年8月12日	国際交流会館に坂之上近隣の方々を招き、留学生と中国語会話を通じて交流。
かごしまアジア青少年芸術祭 “学校交流”	2014 (平成26) 年10月17日	鹿児島市国際交流財団と協力し台湾の合奏団を受入。本学音楽科との相互演奏会を実施。
錦江台小学校の留学生授業参加	2015 (平成27) 年2月19日	留学生が小学校の授業 “総合学習の時間” に講師として参加し、自国の文化について説明。

昨年度は留学生と地域住民との交流会や県内国際交流団体からの学生受入（行事实施）など、単発的にではあるが、地域と連携した国際交流事業を実施した。交流行事は留学生や国際交流サークル等の学生と協力し実施しており、学生同士・参加者同士の国際交流が図られているが、地域との関わりという点では限定的なものになっている。

4. 取組の方向性

将来イメージの実現に向けて、本学の国際交流の現状を踏まえると、今後の取組として次のような方向性が掲げられる。

(1) 鹿児島県の地域特性を活かした国際交流の展開

様々な国々との交流を広い視野で展開することが重要ではあるが、本土最南端である鹿児島県の近隣であり、これまで本学と多くの人的交流があった中国を含むアジア地域は、今後も継続的な交流が期待される場所であり、留学生確保の可能性と企業進出の気運が高いため、まずはアジア諸国との交流に重点を置いていく。

- ① 実際のアクセス便が整っている鹿児島空港国際線の直行便がある地域(上海・台北・香港・ソウル)において鹿児島県との交流に積極的な地域を中心に新規拠点の開拓を行う。
- ② 日本留学の気運が高まっているベトナム、ビジネス面で注目が高まるフィリピンなどの東南アジア諸国への開拓を、宗教的・文化的習慣への対応に配慮しながら進める。
- ③ 日本との国際交流の要望が高い中国内陸部への開拓を検討する。
- ④ 本学と長く交流がある中国沿岸部(大連)との交流も継続する。

目標：3つの地域（環黄海経済圏、東南アジア、中国内陸部）での新規拠点を増やす。

(2) 学生の海外留学の促進と外国における就業力の育成

学生が実際に異文化に触れ、かつ外国語に囲まれた環境に身を置き学習することや、就業体験することの教育効果は非常に大きく、「国際的視野でものを考える人材育成」に直結する。

- ① 学生の海外留学をより促進し、従来の交換留学制度の継続・発展に加えて、鹿児島県との提携事業など、短・中期の語学研修制度の充実を図り、学生の意向に沿った留学・研修の選択の幅を増やす。

また学生が留学やインターンシップを通して異文化や生活環境・慣習の違いを理解し、海外の人々と交流を行う中でホスピタリティの向上に結び付くような取組を図る。

- ② 海外インターンシップは鹿児島県と直行便のアクセスがある地域での新規受入先の開拓も視野に入れながら、制度のさらなる拡充を図る。特に、平成27年度から英語圏であったシンガポールコースを欠いている状況にあるため、英語でインターンシップを行うことができるコースの新規開拓を念頭におく。

目標：全学生数の3%（約90名）以上の学生海外派遣者数、うち海外インターンシ

ップ参加者 1%（約 30 名）を目指す。

（3）外国語教育の充実

海外留学・海外インターンシップの促進と、外国人留学生の受入環境整備のため、外国語教育環境の充実を図る。

- ① 国際ビジネスとグローバル英語プログラムの設置、外国語検定資格取得に対する支援体制、外国語による授業の充実を目指す。
- ② 英語だけではなく、今後広く交流が展開し活用が見込まれる中国語の教育環境の充実を図る。
- ③ 外国語教育に“観光”の要素を加え、将来的に地域貢献できるような語学教育を目指す。

（4）外国人留学生の受入と環境整備

留学生の存在は、日本人学生や教職員にとって国際交流・異文化体験上重要な人材であり、学内の国際化の推進と、学外への本学の国際的取組の情報発信上不可欠な存在である。

- ① アジア地域からの留学生受入を継続・促進し、かつ中国だけに偏らない多様な国籍の受入を目指す。
- ② 鹿児島県と関わりがある地域（上海・台北・ソウル・香港）や東南アジア諸国（ベトナム・ム・フィリピンなど）からの受入を目指す。
- ③ 従来の交流校からの学生受入について検討する。
- ④ 留学生の受入環境としての重要な要素である住居の整備（国際交流会館と学外宿舍の運用など）や留学生向けの教育体制（日本語プログラムなど）、ホームステイによる日本の家庭生活の中での体験学習などの充実を図る。
- ⑤ 留学生のフィールドワークへの参加支援や国際交流支援室による生活面のフォローなど、本学独自の留学生育成体制の充実を図る。

目標：全学生数の 5%（約 150 名）以上の留学生受入を目指す。

（5）外国人留学生の進学・就職支援

外国人留学生が日本国内で進学・就職することもまた、「国際的視野でものを考え、地域社会に貢献する人材育成」に直結する。

- ① 関係部局と連携して留学生に特化した就職ガイダンス等の実施、国内インターンシップへの参加促進を図る。

- ② 留学期間を通じて、鹿児島に関する知識と経験を蓄積した本学の留学生が即戦力となり得る鹿児島の海外向け観光業への就職に力点を置いた支援を進める。
- ③ グローバルエリートの育成を目指し、就職につながる最も価値あるライセンスである博士号の取得や、海外大学とのダブルディグリーの取得がなされるよう修学支援体制を整える。

目標：留学生の国内就職率 20%（約 15～20 名）を目指す。

（6）海外協定校との連携

日本人学生の派遣留学先・交換留学生受入の派遣元であり、正規留学生受入や教職員交換の海外拠点となる海外協定校は、本学の国際交流事業の展開上欠かせないパートナーである。

- ① 現在の各協定校との実質的な交流状況に格差があるため、将来の学生交流・教職員交流上の有効性について検証し、協定更新の可否について検討する。
- ② 留学生確保と日本人学生の留学動向に見合った新規協定校の開拓を進める。

（7）教職員の国際的な人材育成

海外協定校との教職員交換事業に関しては、参加人数は減少傾向にある。しかしながら本学の国際交流に適応した教職員の育成は、将来の大学の国際交流事業を牽引し、学内の国際的な教育環境づくりを促進するために重要な事項である。

- ① 幅広い教職員層へ教職員交換事業への参加を呼びかけ、大学の教職員全体の「国際化」を図るとともに教職員が国際的な教育環境づくりを進めていく中で、異文化や慣習の違いへの理解を深め、国際交流に際してのホスピタリティの向上に結び付くような取組を進める。
- ② 企画・国際課による国際化ビジョンの進行管理を行う。

（8）グローバル化のもとでの地域活性化への貢献

近年、鹿児島県と連携した留学制度の実施や、鹿児島市国際交流財団と連携した国際交流行事の実施などの機会が多くなってきており、相互により良い協力体制が構築されつつある。

- ① 従来の行事をより拡充すると同時に、学内の外国人留学生や国際交流に意識が高い学生が、地域と関わる国際交流活動の機会を増やす。
- ② 学生による通訳ボランティアなど、国際交流ボランティアの育成を図り、地域の産業への直接的な協力を行うことにより地域活性化に貢献する。